

ベネデット・ヴァルキ

『パラゴーネ — 諸学芸の位階論争 —』

オスカー・ベツチュマン 編
トリスタン・ヴェディゲン

清瀬みさを 訳
小松原 郁

定価 6,600 円 (本体 6,000 円 + 税 10%)

A5 判上製カバー装 本文 364 頁 ISBN 978-4-8055-0962-3 C3071 2021 年 12 月刊

ヴァルキは問う——ミケランジェロ殿、お答えください
絵画と彫刻、いずれがより高貴でしょうか？



15 世紀初頭から 16 世紀半ばにかけてのルネサンス期、イタリア美術界で絵画を中心に美術と学問、絵画と彫刻、美術と文学との優劣比較をめぐり熾烈を極めた論争、「パラゴーネ」(諸学芸位階論争)。それは、空虚な観念論ではなく、美術家たちがしのぎを削った革新的な創作活動を通じて、美術各分野の存在根拠を問う、実存的な探究であった。美術家の社会的地位向上と「美術」という概念の形成を導いた西洋美術史の結節点となるパラゴーネ論争調停の要、ベネデット・ヴァルキ(1503-1565)の論著、初の完訳。

「パラゴーネ」(Paragone) とは…

「比較」「対照」を意味するイタリア語で、絵画、彫刻といった諸芸術をめぐる優劣比較論争の総称。

緒言

一 一五四七年のヴァルキのふたつの講演

二 パラゴネ、パラゴナレ

三 一五〇〇年頃の諸学芸のパラゴネ

四 美術家間のせめぎ合い

五 ヴァルキの伝記

六 位階論争

七 美術家へのアンケート

八 ミケランジェロのソネットについての第二の講演

九 パラゴネについての第二の講演

一〇 ミケランジェロによるアンケートへの返書

一一 一五五〇年のヴァザリー『列伝』への序文

一二 後世への影響

年譜

出版にあたっての註記

ベネデット・ヴァルキのふたつの講演

ロレンツォ・トレンティーノの献辞

ヴァルキの書簡

第二の講演

序言

第一の論議

第二の論議

第三の論議

ソネット二篇

美術家の返書

一 アレッツォの匠ヴァザリー

二 ブロンズイーノ

三 匠ヤコポ・ダ・ポントルモ

四 匠タツォ

五 匠フランチェスコ・サンガット

六 匠トリートロ

七 匠ベンヴェヌート・チェツリーニ

八 ミケランジェロ

解題 美術と学芸の相克

小論 ミケランジェロ葬儀におけるヴァルキの追悼演説

——アカデミア・デル・ディセーニョによる美術家の吊いとパラゴネ

清瀬みさを

小松原郁

訳者あとがき

図版キャプション

参考文献

索引

【編者略歴】

オスカー・ベツチュマン (Oskar Bätschmann)

1943年生。1975年にチューリヒ大学で博士号、1981年に同大学にて教授資格を取得。ベルン大学名誉教授。2009年よりスイス芸術学研究所教授。主要著書 *Dialektik der Malerei von Nicolas Poussin* (『ニコラ・プッサンによる絵画の弁証法』) Zürich/ München, 1982; *Einführung in die kunstgeschichtliche Hermeneutik: die Auslegung von Bildern* (『美術史解釈学入門 イメージの解釈』) Darmstadt, 1984; *Ferdinand Hodler. Catalogue raisonné der Gemälde* (『フェルディナンド・ホドラー 全絵画カタログ』) Bde. 1-1 und 1-2 (2010), 2 (2012), Zürich.

トリスタン・ヴェディゲン (Tristan Weddigen)

1969年生。2002年にベルリン工科大学で博士号、2008年にベルン大学にて教授資格を取得。2009年よりチューリヒ大学近世美術史教授、2017年よりローマ、ヘルツィアーナ図書館館長職を兼任。主要著書 *Raffaels Papageienzimmer—Ritual, Raumfunktion und Dekoration im Vatikanpalast der Renaissance* (『ラファエロのオウムの間 ルネサンス期ヴァチカン宮における儀礼、機能、装飾』) Emsdetten/Berlin 2006; *Metatextile: identity and history of contemporary art medium* (『メタテキスタイル 現代的芸術媒体の独自性と歴史』) 編著) Emsdetten, Berlin, 2010.

【訳者略歴】

清瀬みさを (きよせ・みさを)

1988年同志社大学大学院文学研究科哲学および哲学史専攻博士課程後期満期退学。現在同志社大学文学部美学芸術学科教授。

著書『人文学としての芸術研究』(法律文化社、2001) 共編著『カルチャー・ミックスII』同志社大学人文科学研究科叢書LIII (見洋書房、2018)、編著『カルチャー・ミックスIII』同志社大学人文科学研究科叢書LVII (見洋書房、2020)。主要論文「ベネデット・ヴァルキのパラゴネをめぐる一考察—パラゴネの調停と「美術」概念の生成について—」(『美学・藝術学』第13号、1998)、「カスティリオーネの『宮廷人』におけるパラゴネ」(『人文学』第195号、2015)。

小松原郁 (こまつばら・あや)

2017年同志社大学大学院文学研究科博士課程後期修了。現在同志社大学文学部嘱託講師。共著『カルチャー・ミックスIII』同志社大学人文科学研究科叢書LVII (見洋書房、2020)、*Memory of the Past and its Utility: Nation, State, Society and Identity*, Scienze e lettere, Roma, 2014 (同志社大学人文科学研究科研究叢書、48)。主要論文「マンテーニャ作『夫婦の間』再解釈：壁画構想におけるメディチ家からの影響」(『美術史』第179冊、美術史学会、2015)、「マラテスタ家墓廟テンピオ・マラテスティアーノ再考：家系の記憶としての墓碑」(『社会科学』第49巻1号、同志社大学人文科学研究科、2019)。

関連書籍

ジョルジョ・ヴァザリー 美術家列伝 [全6巻]

森田義之・越川倫明・甲斐教行・宮下規久朗・高梨光正 監修

定価各 33,000円 (税込) ●A4判上製函入 平均 550頁

西洋美術史における不朽の歴史的名著、待望の全訳刊行。新訳に加え、各伝記ごとに解説と詳細な註、可能な限り多数の写真図版を掲載した邦訳決定版！

【第1巻】 献辞・総序に始まり、三つの芸術(建築、彫刻、絵画)の技法論とルネサンスの幕開けをなす、14世紀の美術家の30篇の伝記を収録。

【第4巻】 ヴァザリーと同時代に活躍した16世紀の画家など、多彩なジャンルと地域にまたがる美術家たち16篇の伝記を収録。

【第2巻】 プルネッレスキ、マザッチョ、アルベルティ、ポッティチェリなど15世紀に西洋美術に革新をもたらした美術家の伝記54篇を収録。

【第5巻】 少年時代からの友人であったサルヴィアーティをはじめ、ガローファロ、タッデオ・ズッカリなど16世紀の美術家の伝記17篇を収録。

【第3巻】 ルネサンスの最盛期を彩る16世紀の美術家たちの生涯を著した第三部のうち、その序論からダ・ヴィンチなどの美術家の伝記36篇を収録。

【第6巻】 『美術家列伝』掉尾を飾る、ミケランジェロ、ティツィアーノそしてヴァザリー自身の自伝など伝記10篇を収録。【2022年度刊行予定】

中央公論美術出版

お取り扱い

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-10-1

IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798